

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>『や』優しい心で、『さ』さわやかな笑顔、『し』信頼関係を大切に、『い』一緒に楽しく、と独自の理念で認知症高齢者との関わりを大切にしており、また、地域密着型サービスとして『やさしい』には、地域の方々との優しい交流の意味合いもあり、運営理念を実現している。</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>居間に掲示し、また、職員会議やカンファレンスの中で理解しやすく伝えており、全員で共有した考えを持てるように一つひとつの意味を確かめ合っている。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>グループホームの広報誌を定期的に発行し、その中で理念を分かりやすく伝えるように記載し、家族や地域の方々に理解していただけるよう取り組んでいる。</p>	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>近所の方がよく遊びに来て下さる。入居者と馴染みの関係になっており、いつも将棋を一緒に楽しまれている。旅行に行かれた際は、お土産を持って立ち寄ってくださる。花見や敬老会などの行事には、近所の方を招待し、親しくさせていただいている。</p>	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>地元の人々との交流を大切にし、花見や敬老会、夏祭り等の行事に招待している。地域の盆フェスティバルの案内や参加申込書を送っていただき、地域との交流の場を持っている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者の方々にも役立てるように、また、入居者と触れ合いの場になるよう、駐車場に芝生広場、果樹園のある庭(650坪)を開放している。庭には、近くの障害者施設の方が育てた花を購入し、植えに来た際、交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を行う際は、職員と一緒に話し合い、一つひとつの項目を理解して実行している。自己評価及び外部評価をケア内容の充実と向上として受け止め、評価結果を活かして、更なる質の向上に取り組むよう努めている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の話し合いの中で、地域で行われている行事やボランティア活動の情報は参考になっており、ボランティアで入っていただける機会が増えた。外出時は、地域の方と連絡を取り合い、一緒に出かける機会も確保できている。		外出計画を作成し、日時・行き先・人数を事前にお知らせし、利用者様と職員と共に地域の方がボランティアで外出に付き添う取り組みを行っている。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議開催時に、どのような関わりを持っていくかを相談している。また、パンフレットを置かせてもらう等、行き来できる機会を作っている。相談することがあれば時間をいただき、話を聴いていただいている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度内容は、定期的勉強会で学んでいる。成年後見制度の手続きが必要な利用者がおられ、家族と話し合い活用を支援させていただいた。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	香川県主催の高齢者虐待防止の講習会など、参加している。参加後は講習会報告書を提出し、詳しく内容を報告して、職員の勉強会で発表している。		虐待防止マニュアルを元に話し合いの場を持っている。又、定期的な勉強会で講師による指導を受け、虐待について深く学んでいる。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		<p>運営推進会議を開催するようになり、家族代表者からの外部者（市町職員や地域の参加者）へ発する率直な意見は、ホーム職員にとって、家族とより良い関係になる機会になった。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>年間計画の中に、内部での定期的な研修会を計画しており、様々なテーマでトレーニングを行っている。また、外部の研修は、その都度、職員に情報として連絡し、参加する機会を作っている。参加者は、研修報告書を提出し、質の向上に活かしている。</p>	<p>有料の研修に参加したい場合は、運営者に参加願いを提出し、必要であると判断された場合は参加できる。参加費や宿泊費、交通費は運営者が研修費として負担。笠岡市のグループホーム国際サミット等、参加した。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域（香南町・香川町・塩江町）の連絡協議会を発足しており、定期的に（2か月1回）開催されている。病院、特別養護老人ホーム、老人保健施設、他居宅介護支援事業所、老人介護支援センター等の従業者が参加しており、悩みや困難事例の検討、制度の勉強会などを行い、お互いに連携を持っている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員が休憩できる場所を確保している。横になれるソファも用意している。また、月に1回の定例会議にて、運営者と話し合える場を持っている。年に2回、運営者との個人面談があり、直接、悩みや希望、要望を話せる機会がある。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>「自己評価表」の提出、管理者から見た職員の「人事考課表」により、個々の職員の勤務状況を把握しており、それに基づき、個人の面接から問題や悩みを解消し、向上心を持って働ける職場作りをしている。</p>	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>本人との信頼関係は特に大切にしており、ご自身から話されることはもちろん、言葉に表せないことにも配慮できるように、入居前に『生活の様子』『バックグラウンド』『家族状況とグループホームに期待すること』等を聴き、信頼関係を早く構築できるように努めている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談の時点から、家族の気になっていること、困っていること等を詳しく聴き、不安の解消や入居後の希望・要望をしっかりと聞いている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回の相談時からしっかりと状態把握に努めて、面接等を行い、本人と家族が必要とされることを見極めている。他サービスを利用されていた方は、事業所を訪問し、利用時の状態も聞いている。居宅サービスの登録のある方は、介護支援専門員から情報をいただいている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	一人ひとり状態が違うので入居後、個々に応じて自宅への外出・外泊を行っていただき、いつでも自宅へ帰れることを経験していただくこともある。また、家族の協力を得ながら、面会の回数を調整し、徐々に場に馴染める工夫もしている。		精神的に落ち着かれない方には、職員と一緒に居室で食事をしたり、徐々に場に慣れる工夫をしている。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人が話される言葉を大切に、得意な歌などを教えていただいている。また、昔の話などを尋ね、楽しかったこと等の経験話をしてもらい、嬉しいことや楽しいことを共有している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時やホームの行事、担当者会議等で話し合いの場を持っており、日常生活面や身体的な面で喜怒哀楽を共にしてきており、家族と共に歩んで来ている実感がある。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族の関係は様々であるが、より良い関係が継続できるように支援している。本人が忘れないように、さりげなく家族の話題を会話の中に入れてたり、面会時は本人と家族がゆっくりくつろげるように配慮している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方との面会や、電話でのやりとりの支援をしている。郵便物や小包が届くと個々に合わせて、お礼の電話を入れることや礼状を書く支援をしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係を把握できており、利用者同士の関わり合いを大切にしている。気が合わない利用者は、座席を変わったり職員が間に入る等、配慮している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所された利用者にも、家族の了解を得て面会に行き、移り住むことのダメージが少なくなるように配慮している。また、家族に、いつでも相談に乗れることを話している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何を願い、何をしてもらいたいのか、本人の視点に立ち、安心して暮らしていけるケアに取り組んでいる。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	独自の「家族状況とグループホームに期待すること」「バックグラウンド」「生活様子」のシートを利用し、個々の生活歴や状態後の把握に努めている。契約者以外の家族からも、面会時にこれまでの暮らしを聞いている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個々の毎日の生活を記録し、他職員へと申し送っている。変化があれば、その都度話し合い、状態の内容と対応策を職員全員が共有できるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の状況を十分にアセスメントした上で、意見を出し合い、本人や家族の要望を聴きながら、介護計画を作成している。主治医からは、医療面からみた介護上の留意点や気づいた点を文書でいただき、計画に反映している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月に一度見直しを行い、状態変化があった場合には、再度見直しを行うようにしている。見直しには、本人や家族、医療機関の関係者、職員が話し合い、新たな計画を作成している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	「行動計画実施記録」は、計画に連動した内容になっており、毎日のケアの実践・結果を記録し、毎月評価を行うことにより介護計画の見直しに活かしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族が本人と一緒に過ごしたいと申し入れがあった時は、宿泊されることもある。ホームと家族が気兼ねなく、家族的なおつきあいができるよう柔軟な支援している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	行事の際には、地域のボランティアの方が訪問して下さり、入居者と一緒に外出したり交流を持っている。消防訓練には入居者も一緒に参加している。避難訓練では、近所の方が誘導して協力をいただいている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域の介護支援専門員の連絡協議会に参加し、他のケアマネジャーや他事業所の担当者と常に連携を持って、必要なケアの提供をしている。		本人、家族の意向により、地域近隣の病院の認知症デイケアを利用されている。決まった曜日に出かけることで毎日の生活に張り合いが出ている。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	かかりつけ医は、本人や家族の希望により選んでいる。主治医が月に1～2回の訪問がある。また、容態が悪いときは往診に来てもらえる。事業所近くの総合病院複数と協定書を結んでおり、救急の際も安心できる。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	認知症に詳しい専門医に、行動障害が著しい入居者の相談や診断、治療をしていただいている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>ホーム内に正看護師を配置している。また、地域の病院の看護師とも連携がとれており、医療面での相談に乗っていただいている。</p>	
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>入院中は、本人が不安にならないよう頻回に面会している。また、家族や病院に詳しく病状を聴き、認知症の進行や下肢筋力の低下を考えながら、早期に退院できるように医師との連携に努めている。</p>	
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>重度化や終末期については、入居時に家族からの希望を聞いている。しかし、家族の気持ちに変化がある場合もあるので、機会を見ながら、繰り返し話し合っている。また、主治医の訪問時間に、家族を交えて話し合いの場を持ち、方針を共有している。</p>	
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>ホームにおいての『重度化した場合の対応に関わる指針』があり、その中でホームができることとできないことを見極めている。かかりつけ医と連携し、できる限り入居者の意思を尊重し、また、家族の意向も尊重しながら支援に取り組んでいる。</p>	
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>入退居の際は、家族、かかりつけ医や関係する担当者間で、様々な事項を想定し、十分な話し合いを行って住み替えのダメージを防止している。</p>	
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>入退居の際は、家族、かかりつけ医や関係する担当者間で、様々な事項を想定し、十分な話し合いを行って住み替えのダメージを防止している。</p>	



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	独自の『プライバシー保護の取り扱いマニュアル』を作成しており、個人情報についての適切な取り扱いをしている。また、一人ひとりの尊厳を大切にしている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	自立の可能性を最大限に引き出せるように支援し、残された能力を活用でき、自信が持てるような会話をしたり、自己決定ができるような雰囲気作りに努めている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員中心や業務中心にならないように、一人ひとりが個人として、マイペースで楽な暮らしができるように支援している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	希望時や必要時に美容師が訪問し、カットや顔剃りを希望に応じて行っている。以前からの行きつけがある方は、家族に協力を得ながら、連れて行ってもらっている。整容の乱れや同じ服装ばかりの方には、さりげなく一緒に直している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人のできること・できないことをアセスメント「食事・調理」の中で見極め、一人ひとりの力量に合わせて、食事の盛り付け、調理、配膳、片付けを一緒に行っている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	今までの生活習慣を変えないように配慮している。今までの楽しみを奪ってしまわないようにサポートしている。おやつを楽しみに居室内に持っておられる方は、賞味期限や衛生面に注意しながら支援している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	失禁(失敗)のある方には、排泄チェック表で排泄リズムを把握し、誘導を行っている。排泄の誘導は、さりげない言葉に置き換えて行い、羞恥心に配慮している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決めているが個々に合わせて、柔軟に対応している。体調等に考慮しながら、本人の希望を重要視している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居前の生活リズムを、入居時に家族に聞いている。メリハリのある暮らしも考慮しながら、状況に応じて、起床時間や就寝時間、休息時間は、以前の生活習慣を崩さない配慮をしている。また、薬に頼ることなく、精神的安定を重要視している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の生活歴や趣味を把握し、趣味や役割を再び持っていただき、毎日に張り合いが持てるように支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持は、個々の力量に応じて管理している。買い物の際は、職員が傍にさりげなく立ち、本人がお金を持ち、支払う機会を作っている。一人ひとりができるかを把握しており、力量に応じて支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	庭(650坪)や芝生広場があり、天気の良い日は戸外でお茶を飲んでいる。庭には休憩所やトイレが設置されており、長時間でも安心して過ごせる。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	計画をたて、利用者と相談しながら実行している。芝居を観にいたり、最近では、昼食にうなぎ専門店へ出かけた。普段行けない遠方への外出としては、愛媛県のビール工場へ見学に行った。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に会いたいと話される時は、電話で話す機会を作り、本人の気持ちが満足されるように支援している。暑中見舞いや年賀状は力量に合わせて、職員が手伝い、出している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会者と利用者が気兼ねをせず、過ごせるように配慮している。おやつ時は、一緒に召し上がっていただいたり、散歩と一緒に出かけたり、過ごしやすい雰囲気作りをしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に「身体拘束廃止委員会」を開催し、職員全員で話し合っている。全体の勉強会でも身体拘束について取り上げて、内容を把握できている、ケアにも反映されている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室、玄関に鍵をかけていない。不穏症状がある方は、傍に寄り添い、安心できるように対応している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室内に訪室する時はノックをし、お邪魔させていただいている。利用者にとって不快にならないよう配慮しながら、常に所在は確認している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	刃物類は使用していない時は、目につかない場所に保管している。はさみには番号が付けてあり、使用していない時は、数量を確認できるようにしている。洗剤や消毒液は、事務所内に保管し、目にふれないようにしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	独自の『事故防止マニュアル』を作成しており、事故防止の対応を常に話し合っている。職員全員が入居者の日々の状態や性格を理解しており、目配り、気配りにて事故防止に取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年間研修計画の中に入れて、定期的に学習・実習している。事業所内で行う勉強会の他に、自治体で行う講習会にも参加している。新人職員、参加できなかった職員は、管理者が個々に指導している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、避難訓練・消火訓練を行っている。訓練には近所の方も参加していただき、協力を得ている。また、夜間の火災を想定した訓練も行っており、利用者が安全に避難できる方法を習得している。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	リスクは、家族に事前に話している。リスクを認識し、危険回避策は講じるが、自由な生活区間も大切に、何がどう危険なのかと安全を重視するために、やむを得ず行う制限について家族と話し合い、合意もっている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝バイタルチェックを行い、血圧や体温の変化、顔色や睡眠状態、行動などに注意を払い、細かなことでも常に職員間で報告し合い、異常時には医師に速やかに報告し、指示を仰いでいる。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の服薬一覧表を作成し、薬品名・投薬量・時間を確認できる。処方箋にて薬の効果、効能・注意事項(副作用)を把握できている。症状に変化があれば、医師に相談し指示を仰いでいる。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	献立に根菜類や繊維の多い食材を多く取り入れている。また、乳製品を多めにしたり、水分をしっかりとっている。適度な運動で排便を促す便秘体操を取り入れ、便秘薬に頼らない対応を心がけている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアは必ず行い、不十分な方は職員が一部介助している。口腔状態を把握し、必要と判断すれば、家族に相談し、訪問歯科にて治療や入れ歯の修理・調整・作成を依頼している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が献立作成をしている。食事摂取量は毎食後記録しており、摂取量を確認し、個々に対応している。水分を摂りたがらない方は、十分な水分量が確保できるように、ゼリーを作って召し上がっていただく等、工夫をしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	独自の『感染症マニュアル』を作成している。定期的な勉強会で感染症の知識を習得し、職員全員が正しい知識を持ち、共通の認識で感染防止に努めている。インフルエンザの予防接種は、入居者・職員全員、接種している。職員が出勤してきた際や外出から帰宅時、また、外部の面会者は手指消毒や手洗いの励行に努めている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具、布巾等、毎日洗浄消毒を行っている。『清潔』『迅速』『加熱、冷却』をポイントに職員、入居者の手洗いの励行を重要視している。食材は、翌日一日分が前日に市場から届き、常に新鮮なものを提供している。		『食事管理マニュアル』の「キッチン衛生管理」「食中毒防止対策」に沿って正しい知識を知り、食中毒防止に努めている。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	近所の方が訪ねて来やすいように、玄関扉をオープンにしている。玄関周辺は明るい雰囲気にするために、花を育て、入居者が手入れをしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天窓には寒冷遮を張って、日差しが柔らかくなる配慮をしている。夏場は簾をかけ、強い日差しを避け、尚かつ、季節感を出せる工夫をしている。季節の花々を一緒に生けたり、テレビの音量も個々に応じて調整している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのテーブル以外に数個のソファを置き、仲の良い方と談話したり、一人でくつろげるスペースを数か所作っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時の準備物説明の際に、使い慣れた家具や生活用品を持って来ていただくように話し、環境が急変しないよう配慮している。本人の趣味に合わせて机や椅子、ソファを用意している方もいる。ベッドでなく布団で生活されてきた方は、今までの生活暦を崩さない配慮もしている。</p>		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>一日2回以上の換気を行っている。気候の良い時は窓を開け、季節の風を感じていただいている。温度調節もこまめにしている。</p>		
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>それぞれの方々の身体機能に合わせて、各か所に手すりを設置している。羞恥心を伴う入浴は、見守りのもと、できるだけ自分で安全に入浴できるように、浴室内に手すりや浴槽台、浴槽手すり、滑り止め等で安全を確保している。</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>居室ドアには、各自手作りの表札やカラープレートが取り付けられている。個々の力量に応じて、分かりやすい目印的な飾りつけも施している。</p>		
87	<p>○建物の外周リや空間の活用</p> <p>建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>玄関の周辺には、常に花を植えて花々を眺めたり、手入れや水やりをしたり、利用書にとって和やかな気持ちになれるようにしている。居室のベランダに、家で育てていた花を持ってきて育てている方もいる。</p>		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

理念に掲げている『やさしい』を念頭に、常に笑顔が耐えないホームであるように取り組んでいる。自然に囲まれた環境を活かして、屋外に出かける時間が増えるよう常に考えている。自然の中で季節の風を肌で感じたり、花や木々の緑を見て、気持ちが晴れて心が癒されることを、一緒に暮らしている入居者と職員が共に感じ、共に喜びをわかち合いたいと考え、支援している。また、散歩をすることで身体を適度に動かし、筋力が保て、いつまでも元気で暮らせることを願っている。